

## 上野地区のものとう

斎宮跡・文化観光課では、町内各地区で大切に守られてきた伝統行事や風習・伝承などを、後世に継承することを目的として、地区ごとに職員による聞き取り調査を行っていきたいと考えています。今回は平成 28 年度にモデルケースとして実施した上野地区での聞き取り調査の実施状況と、調査によってわかってきた「ものとう」について紹介します。

### <上野地区での調査状況>

- 平成 28 年 4 月 9 日（土） 39 名参加  
『伊勢街道ものがたり』発刊に合せ、伊勢街道と上野地区の関係などを説明。合せて聞き取り調査への協力依頼。
- 平成 28 年 9 月 30 日（金） 27 名参加  
聞き取り調査の実施。  
行事・伝承・石造物・安養寺などの聞き取り。



聞き取り調査の状況

### <聞き取り成果>

#### ・松屋甚平供養塔

江戸時代の上野の住人で、所有していた田畑を村に寄進する代わりに、自身の永代供養を頼んだという。



#### ・古写真



安養寺境内での会式踊（昭和 31 年）

### ・上野の行事

|     | 現在                         | 昔                      |
|-----|----------------------------|------------------------|
| 1月  |                            | 正月、伊勢神楽                |
| 2月  | 仲神社の祭礼(11日)                |                        |
| 3月  |                            |                        |
| 4月  |                            | 花まつり(8日)               |
| 5月  | 大川ざらいと生活排水路の清掃             |                        |
| 6月  |                            | 松屋甚平の供養(3年目の6月)        |
| 7月  |                            | のあがり                   |
| 8月  | 盆の送り(16日夕方)                | 盆の送り                   |
| 9月  | 会式踊り(第2土曜)                 | 会式踊り(1日)<br>いもや団子(15日) |
| 10月 |                            | まめやくり(13日)<br>えびす講     |
| 11月 | ものとう(23日)<br>山の神           | 亥の子                    |
| 12月 | 開山講(第3土曜)<br>冬至粥<br>除夜の鐘撞き | ものとう(1日)<br>山の神(7日)    |

### 聞き取り調査でわかってきた上野の特徴的な文化遺産 「ものとう」

- 「おお（大）とう」と「こ（小）とう」の二つがある。
- 「おおとう」は、現在も 11 月 23 日に関係者が集まって行事が続いている。
- 「ものとう」に関わる、道具や古文書が多数保管されている。
- 「ものとう田」を今も所有している。

# 上野地区の「ものとう（おおとう）」 現在の状況

(2016年11月23日、2017年3月9日間取り)

実施日：例年11月23日

構成世帯：16世帯（休とう：1世帯）

内容：上野公民館に集まり、お参りする。（※平成25年度まで公民館に集まって食事をしていた。）

体制：3世帯が当番となり、その内の1世帯が「チョウガン」(主人)で、関連の道具や古文書などを1年間管理する。



2016年11月23日の参加者



「八王子」と彫られた扁額

戦前は、「おおとう」の人が揃うと「宮さん（仲神社）」へお参りに行った。



祭壇に向かい参拝する「おおとう」の人々



お供え物を置く木の板板には「大黨御神棚 / 御神領 / 上野邑」と墨書されています。

## 「ものとう」で使われなくなった道具類



・太鼓

主人の家に参集した「おおとう」の人が、太鼓を叩いてから家に入った。



・幕

「ものとう」の日、主人の家の庇に張り巡らされていた。



・漆器、陶磁器



※資料は現在明和町に寄贈されています。

戦前の様子については、三田實さんに教えていただきました。

# 「ものとう（おおとう）」に関わる古文書

史料数：28点（他に仲神社に関わる賞状2点）

- 内 容：①勘定帳、②献立帳、  
③名簿帳、④土地および財産関係など



「おおとう」に伝わる古文書群



今から 220 年以上前の史料

## 「おおとう」に関わる最も古い史料

古文書の中で最も古いものは、寛政 6 年（1794）の年号が確認できます。内容は、冒頭部分に寛政 6 年に「ものとう（おおとう）」の一員であった「伊八」の家が火事になり、「ものとう」に関わる文書や神事用具が焼失したことが記されています。火災によって上野地区の「ものとう」がいつから行われてきたか分からないのは残念ですが、同史料中には天明 6 年（1786）からの当番名簿がさかのぼって記されており、少なくとも江戸時代の天明年間から行われていたことが分かります。

寛政六年甲寅正月四日夕食事処伊八方より  
出火仕古帳并神棚壹枚御膳二枚長柄丁子  
壹對膳式拾五人前椀二十人前たはこ盆壹面大生  
但し坪平丸  
板壹枚小生板壹枚長箱壹ツ田地証文壹通  
右之通伊八方にて焼失仕依之帳面此度相改  
書印者也

神宮文庫には「神領上野村大当百姓故仕未扣写」という史料が保管されており、焼失した史料の内容が書き写されている可能性があります。内容の一部は、中田四郎「近世神宮領内の宮座・若衆組について」（『ふびと』12号）などに紹介されています。



史料の解読には「上野古文書調査隊」の皆さんにご協力いただきました！

## 古文書からわかってきた「おおとう」

- ・上野村の氏神社（八王子社）に関係する集団で、江戸時代中期ごろまで村落の中で一部の有力層のみで形成されていた
- ・氏神社の神事や造営を取り仕切っていた
- ・氏神社へ神宮領から寄進された田地（現在の「ものとう田」か）を管理していた

## 現在 11 月 23 日に行っている行事の意義

今年の「おおとう」の代表者が来年の代表者へ引き継ぎを行う重要なもので、代表および当番になることは負担も大きいですが、名誉のあるものだったと考えられます。

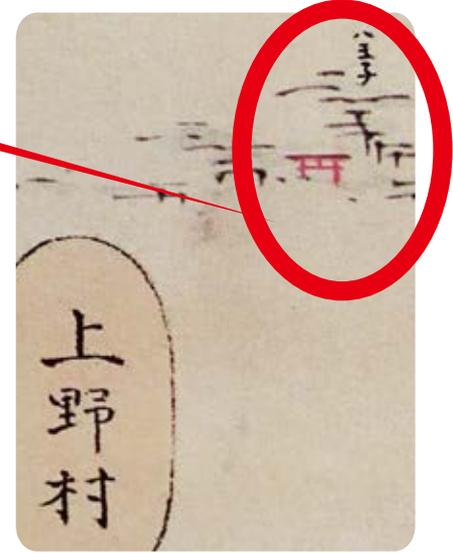
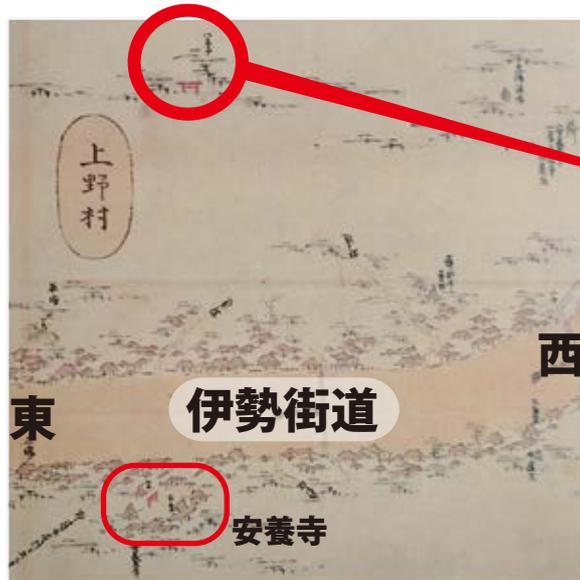
# 「八王子様」とは…

「おおとう」の皆さんが今でも大事にし、参拝する「八王子」の扁額は何を指すのでしょうか。上野に関わる資料から探ってみましょう。



## ・絵図から

江戸時代の上野村が描かれている『伊勢路見取絵図』（第二巻上 1985 東京美術発行）からは、上野村の南の方角に赤色の鳥居が表現され「八王子」と記述されていることがわかります。



## ・古記録から

世古口藤平が幕末から明治初頭に度会郡・多気郡・飯野郡の各村の神社を廻った際の記録『神三郡神社参詣記』（1986 櫻井治男「資料翻刻『神三郡神社参詣記』（二）『皇學館大學神道研究所紀要第二号』）によれば、上野村について以下のように記述されています。

「(略) 上野三田屋の裏の方に大森ナミ社 / □産土神 **八王子** / 此社元西の方に古宮所ト云古跡あり、中畑所ト云字あり広き / 場也、右社を此所より移し祀たるによつて右産土神を、明治 / 二己巳年式内ノ社仲神社と改、表二棒杭建あり」

この記述から、「八王子様」とは現在の仲神社であると考えられます。

明治になると八王子社は社名の改称や神社合祀が行われ、八王子という名称が次第に忘れ去られていったのでしょうか。それでもなお「おおとう」の人々は八王子の扁額を大事に保管し、今も行事が続けられています。

## 上野地区の「ものとう」関係地図

